

令和8年度第1学期始業式 式辞

皆さん、おはようございます。

私は、この4月から校長を仰せつかりました辻岡英幸です。どうぞ、よろしくお願いします。この3月までは県庁に勤務して、愛媛県のスポーツ振興、具体的にはジュニアから大人までのスポーツの育成・強化に係る仕事をしていました。

県庁在籍時には昼休みになると、よく城山の周りを1周するコースで散歩をしていました。丁度、北校に勤務することが分かった3月末に、緑町付近を散歩していたら、北校の野球部の皆さんと、城山でトレーニングの帰りでしょうか、すれ違いました。その時に、何人かの部員が「こんにちは」と挨拶してくれました。これ、学校内で先生や関係者への挨拶も良いことだけど、学校外で自分の判断で、その場に相応しい挨拶ができるというのは、レベルの高い本当の挨拶だと思います。この時、私は、こんな素晴らしい生徒がいる学校で勤務できることが嬉しくて、楽しみになりました。

さて、今日は、新しい学年のスタートとなる節目の日です。そのスタートに当たり、皆さんは、この1年の目標を自分なりに掲げて、この場に臨んでいることと思います。

そこで、私から皆さんに2つのことを話したいと思います。

1つ目は、文武両道についてです。

私はこの2月に県のジュニア選手国際交流事業で、県内の高校生を連れてオーストラリアに行きました。シドニーとブリスベンに行きましたが街も景色もきれいで、現地の人は気さく、英語での会話も親切に付き合ってくれるので、初めて英語圏の海外に行くにはお勧めです。半面、物価が高くて500mlの水が約700円、ハンバーガーのセットが1,500円以上、ハーゲンダッツは800円で日本より甘めでした。

現地のガイドさんにオーストラリアの高校生について聞いたら、国の方針で中学3年生頃から週に3日程度アルバイトを始めて、高校3年生くらいには自活する人も多く、大学には、国から自分で奨学金を借りてアルバイトして返済しながら通うそう。

早くから働いて社会を知るから、日本の若者に比べて精神的・経済的な自立が早いと言われていますが、私は、オーストラリアの学

業と労働の両立に対して、本校の文武両道は決して負けていないと思います。なぜなら、早いか遅いかの違いはあるものの、「どんな人間になり、どう生きるか」という答えを見つけるゴールは同じだからです。本校の伝統となっている文武両道は、世界に通用する取り組みと私は思っていますので、ぜひ自信と誇りを持って、精一杯やり抜いてください。私も先生方と一丸となって、皆さんを全力で支えていきます。

2つ目は、遺伝子についての話です。

遺伝子学者の村上和雄先生は、人の遺伝子は99.5%同じだと言っています。分かりやすく言うと、あの大谷翔平選手と皆さんの遺伝子は99.5%同じということです。ところが、ある分野の能力で比較すると、実際には差が出てきます。その理由は現代の科学では明確には解明されていませんが、村上先生によると遺伝子にはスイッチがあるそうです。また、人間には働いていない遺伝子がたくさんあって、そのスイッチがオンになったり、オフになったりすることで、遺伝子の働きが大きく変わり、その差が生まれるというわけです。そして、そのオンとオフに強く関わっているのが「心の持ち方」だそうです。

ですから、皆さんには、自分に限界を決めないで、自分はもっとできるというスイッチをオンにして、自分自身に期待する『自己期待感』を高めて、あえて達成が困難な目標を設定して、積極果敢に挑戦してほしいと期待しています。

この話に興味を持った人は、村上先生が鹿児島県の高校生に講演した「君のやる気スイッチをONにする遺伝子の話」という本がありますので、どうぞ私に気軽に声を掛けてください。

それでは、この1年、先生や職員の方々、地域の方々と協力して、明るく活気あふれる松山北高校を一緒に創っていきましょう。このことをお願いして、始業式のあいさつとします。

令和8年4月8日

愛媛県立松山北高等学校長 辻岡 英幸